

教育者研究会で学びました!

第53回教育者研究会は、道徳教科化を見据えて、今年「道徳教育の新たな充実をめざして」をテーマに、岐阜県下5会場で行われました。本会は、平成28年7月26日(火)岐阜会場に参加しました。場所は岐阜スポーツプラザ。岐阜もとす事務所からは12名と、これまでにない大勢の参加となりました。岐阜地区は今年岐阜市が担当、山岡浜三郎氏を中心に準備が進められ、当日は雨天の中、駐車場係として神谷副会長・森理事がご活躍でした。

開会式では、国歌斉唱の後、岐阜県モラロジー協議会会長・中村修一氏の開会挨拶、公益財団法人モラロジー研究所東海ブロック副部長・三宅敏行氏の主催者挨拶がありました。全国各地84会場で開催されていることと研究会参加者へのお礼、期待を述べられました。

また、開催地を代表しまして岐阜市副市長・浅井文彦様、教育長・早川三根夫様より、教育課題の克服と現職教員に向けての熱い思いを語るご挨拶がありました。



開会挨拶
中村会長



主催者挨拶
三宅副部長



来賓挨拶 (岐阜市)
浅井副市長



来賓挨拶 (岐阜市)
早川教育長

平成28年度 研修内容

第1講「教師の品性を培う」

社会教育講師 穂苅 満雄 先生

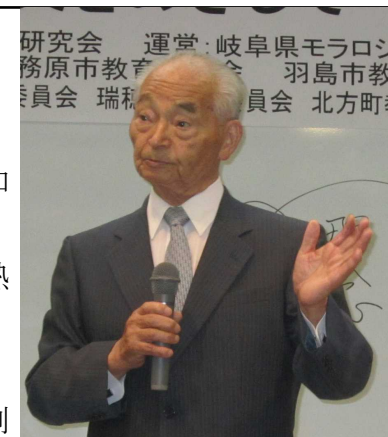
「私は昭和7年生まれですが、今年は昭和91年になります」と自己紹介されました。昭和にこだわる生き方にある強い信念と熱弁を奮うお姿には84歳とは思えぬ若さを感じさせていただいた穂苅先生でした。

「針が曲がれば糸が曲がる」と教師の役割

として子どもへの感化力の重要性をまず説かれました。そのためには、人格の完成を目指して日々絶えず学び続け、教師の品性を培う必要があります。では、どんな行いが大切になるのでしょうか…。

「孝は百行の本、親孝行がすべての行いの基です。そのため、挨拶や礼など、身近な家族への行いから見直してみることです。様々な恩恵を感じ、他人に対して不快な思いにさせない心遣いを行うことです」

人の一生は約3万日。生かされている命を精一杯輝かせてくださいと、現職の参加者にエールを送られた穂苅先生でありました。



教育実践発表

「道徳教育推進教師としての取組」

岐阜市立市橋小学校 山羽 千晶 教諭

前回の改訂で設けられた道徳教育推進教師の役割と実践について、教育現場では多くの期待と共に不安や戸惑いがありました。今回の山羽教諭の実践内容は、優れた実践として、示唆に富んだものとなりました。



「道徳教育推進教師は、校長の指導の下、全教育活動全体を通じて道徳教育を行う推進役として期待されています。本校では道徳教育への意識と力量を高めるために授業の研修を行いました。河合校長が教師役、教師が子ども役となって基本的な道徳授業を疑似体験することにより、子どもの心理も学びました。年間計画の加筆修正・『別葉』の作成・道徳コーナーの設置・用語の共通理解など、全教師の共通の課題意識づくりや協力の実際について具体的な活動と呼びかけてきました。『研推だより』がその役割を果たしてきたように思います」

昨年の会報に「道徳の授業のことを学年会で話題にする（できる）学校になることが重要」と書きましたが、その意を更に強くしました。

第2講

「道徳の特質を生かした道徳授業」

岐阜市立市橋小学校 校長

河合 宣昌 先生

河合先生は、岐阜県道徳教育の第一人者としてご活躍の他、文科省『私たちの道徳』作成に協力される全国的にも著名な指導者です。

まず講義の意味を3つ上げられました。①文科省の新方針（赤堀博行氏理論）の再確認、②具体的な授業の実践例の提示、③「不平等感」「いじめ」が教科化の背景にあることを踏まえ、特に若い教師に道徳教育の意義を伝えて道徳教育の裾野を広げる。

講義はQ&A方式で進められました。始めに「今の学級の実態を生かした授業をすぐにやってもよいですか」と問い、参加者が暫し脳裏で考えをめぐらせたところで解答されました。時間があれば個々に指名しながら、より活発に進めたいところでしょうか…。

道徳の時間の特質の再確認では、①計画的、発展的、②補充、深化、統合、③4つの理解（価値理解、人間理解、他者理解、自己理解）、④内面的資質としての道徳性の育成、の解説をしていただきました。



教科化へ向けてのキーワードとして「考え、議論する道徳」が話題になっており、授業論で説明されました。資料から自分の考え方、感じ方＝自己理解をし、率直な話し合いを通して他者理解し、道徳的価値に関する自分の考えや状況を振り返る＝深く自己理解するのです。対立的にまた教師の意図に従って話し合うものでもなければ、主人公の気持ちを読み取るものでもないということです。

今後考えていきたいこととして、資料『おじいさんの顔』を使いながら、よく陥りがちな授業の展開上の問題点を分かりやすく解き明かされました。



熱心な会場の風景

質問コーナーは「評価方法・記述の仕方」に関心が集まりました。いつも感心するのは、河合先生の「耳」です。どんな場合でも、発言者の意図を的確につかみ、適切に価値付け、生かされます。これこそ授業者が最も学ばなくてはいけない資質だと思います。



最後に、子安会長より、研究会の総括をしていただきました。講師三人の内容に触れながら丁寧なお礼を述べられ、「学び続ける」尊さを語られました。結びは、酷暑の中にも拘らず、自ら求めて参加された先生方への感謝と期待に満ちたものとなりました。

閉会挨拶 子安会長 当日の参加者人数は120名とお聞きしました。司会進行を務められた松久卓矢教諭（岐阜市立柳津小）、岐阜地区の関係者の皆様、お疲れ様でした。そして誠に有難うございました。

今回もNPO法人「RSS バングラに愛の学校を」がボランティア参加としてコーヒーを提供させていただきました。皆様のご理解と多大なるご協力に厚く感謝申し上げます。 【文責・森山】